

平成30年第2回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
6月20日(1日目)			
1	2	浅井宏昭	一問一答
2	9	佐藤敏雄	一問一答
3	1	星直樹	一問一答
4	4	大桃俊彦	一問一答
5	13	佐藤肇	一問一答
6	3	星野みゆき	一括
7	11	大平栄治	一問一答
8	19	遠藤徳一	一問一答
6月21日(2日目)			
9	16	本田篤	一括
10	8	志田貢	一括
11	7	富永三千敏	一問一答
12	10	岡部計夫	一問一答
13	5	大桃聡	一問一答
14	18	大屋角政	一問一答
15	6	大平恭児	一問一答
16	15	高野甲子雄	一問一答
17	12	渡辺一美	一問一答

※一括:一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。
 ※一問一答:初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

平成30年第2回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

平成30年6月20日（1日目）

1番（議席2番）浅井宏昭 一問一答

【メモ】

1. 視覚障害者について

- (1) 視覚障害者に対し、この先どう考えていくべきか。
- (2) 視覚障害者の移動手段について、魚沼市障害者計画に「障害のある人へのタクシー券の交付など、医療機関への通院や社会参加のための支援を継続する」とあるが、その他に力を入れていくところはないか。
- (3) 災害時の視覚障害者への対応はどうなっているか。
- (4) 視覚障害者が更に住みやすいまちとする考えはあるか。
- (5) 将来的に高齢化と糖尿病等で視覚障害者が激増すると考えられているが、市としてはどう考えているか。

2. 魚沼音声訳の会について

魚沼音声訳の会は、共同募金やボランティア会員からの会費など年間16万円程度の資金で運営し、音声で市報を聴きたい方のために朗読した市報のおぬま音声版を作成し利用者に届けている。

- (1) 魚沼市はろう者への手話言語条例は制定されたが視覚障害者への対応はどのようになっているのか。
- (2) 一時期ボランティア団体の解散の話が出たこともあったが、解散してしまった場合、現在行っている音声訳はどうするのか。
- (3) 年間16万円程度の資金の中で、翻訳に使用している機材等が故障した場合翻訳ができなくなってしまうので、ボランティアの方が安心して作業できる環境を整えてはどうか。

2番（議席9番）佐藤敏雄 一問一答

1. 魚沼市の生き方改革「健康寿命の延伸策」について

- (1) 高齢者の「生きがいづくり」が、健康寿命の延伸に役立つものとする。地域の役に立つことをやれる方策を見つけ、周囲の評価や、やってきてよかったと思うような生きがいを感じる取り組みを市として手伝えることはできないか。現在健康ポイント事業を展開しているが、もう一步踏み込んで、ありがとう券（地域通貨）や今期導入が決定している商工事業者共通ポイント券事業などの参加活用もあると思うが、市長の見解を問う。

- (2) 早い時期から健康な生活習慣を確立するための指導を徹底し、一次予防の考え方を持って生活することが大切だと思う。市が毎年受診を進めている「健康診断」の受診率向上が発病予防に効果が大きいのと考える。最低でも全市民が年一回健康診断を受けていただく具体的な取り組みや、仕組みづくりについて、市長の考えを問う。
- (3) 健康寿命は、口腔衛生の状況で大きく左右されると言われている。現在、魚沼市では住民基本健診のメニューに口腔衛生、歯科健診のプログラムがないので取り入れてはどうか。
- (4) 人の尊厳ある最後を迎えることも、健康寿命の延伸につながるものとする。長野県須坂市では、福祉推進協議会で終末医療について生前の意思表示を記す個人携帯カードを作成している。魚沼市でもこのような取り組みができないか。

3番（議席1番）星 直 樹 一問一答

1. ふるさと納税について

現在、寄附者が寄附金の使い道を選ぶことのできるシステムとなっているが、より明確な選択肢にするべきではないか。

2. 平成30年度以降のスキー場運営について

- (1) 来シーズン正常に動くか心配な圧雪車がある。市からの援助はあるか。
- (2) 市内共通シーズン券の作成と小・中学生の半額補助で利用者の利便性はもちろん、活用実績をスキー場再編の検討材料としないか。
- (3) シニアに対するシーズン券、及びスキー教室に対する補助で健康増進、医療費軽減を考えないか。
- (4) 長岡、小千谷方面のスキー授業に対し、各スキー場がそれぞれ学校や行政にアプローチするよりも、観光振興室が窓口になり、一緒にスキー授業の営業をしたらどうか。

4番（議席4番）大 桃 俊 彦 一問一答

1. コシヒカリ紅葉マラソンについて

- (1) 大会後の実行委員会での反省内容と今後の検討課題は何か。
- (2) 市民参加体制の強化による機運の高揚策は何か。
- (3) 現状に満足せず、このマラソンの発展的成功に向け企画段階から市民参加を募ってはどうか。

2. 地域活性化及び自然保護学習の場について

慈眼寺山・薬師山という地元民に親しまれてきた山がある

が、昨今市民に活用されているとは言いがたい状況である。これに危機感を覚える各種団体がこれらの自然資源を活用し「緑の募金」の森づくり補助事業情報等を提供したり、各種団体の連携を強化している。その動きを加速させることが重要と考える。

- (1) 各種団体の取りまとめ役として市がイニシアチブをとって、慈眼寺山・薬師山を子供たちの自然学習の場等として整備する考えはあるか。
- (2) 各種補助事業等の情報を幅広く取得し団体に提供したり、申請手続きをサポートしてはどうか。

5番（議席13番）佐藤 肇 一問一答

1. 魚沼市の都市計画を問う

都市計画による用途指定がされていない井口新田から吉田にかけて、大型商業施設の進出が続き、人や物の流れが大きく変わってきている。また生活の利便さを求め、周辺に新たな宅地化が進んでいる。

- (1) 都市計画の用途指定地域から外れたところに大型商業施設が立地している状況だが、都市計画の観点からこれらの地域を用途指定し、周辺を含めた市街化を進める考えはないか。
- (2) 現在、用途指定を行っている地域内であっても、現状農地となっている所も多い。市として、これらの地域の宅地化を誘導していく考えはないか。
- (3) 無秩序な宅地化が進めば、道路や上下水道などの都市インフラの整備が追いつかず、結果として経費がかかる都市になってしまう。用途指定地域の市道沿線が農地のうちに、道路拡幅や水路整備を先行投資し、優良な宅地となるよう計画できないか。
- (4) 優良な宅地化を進めるためには、都市インフラ整備が不可欠であり、付加価値が高まれば需要も生まれる。PFI の手法で民間に開発を任せることはできないか。

2. 高齢者の交通事故対策について問う

高齢者の交通事故を減らす対策として、市でも高齢者の運転免許返納者を対象にタクシー券を交付したり、自家用車に代わる交通手段として乗合タクシーなどを運行している。しかし、中山間地域が多い魚沼市においては、一人が1台の自動車を所有し、毎日の買い物や通院に自家用車はなくてはならないものとなっている。

- (1) 近年は自動車安全技術の進歩で、安全運転支援装置が装備された新車が続々と発売されている。事故防止の観点から、安全運転支援装置を搭載した車を購入する際の補助金制度を作ってはどうか。
- (2) 安全運転支援装置は、センターライン等道路からも多くの情報を得てドライバーの支援を行っている。しかし魚沼市の市道の多くは、ラインが消えていたり、幅員の狭い道路ではラインが引かれていないところも多く見受けられる。道路維持修繕予算の増額で対応してもらいたいが、どうか。

6番（議席3番）星野みゆき 一括

1. 不登校対策について

- (1) 市内の不登校の児童生徒数と割合及び要因はどうか。
- (2) 給食だけ食べて帰る、放課後だけ登校するような形で出席扱いになっている児童生徒の数を把握しているか。
- (3) 不登校児童生徒支援員を学校に配置し、担任が家庭訪問をしても会えないケースに対応している自治体がある。近隣市では、嘱託指導主事を配置し不登校対策のチームを作ったり、教育センターに臨床心理士を配置するなどかなり不登校問題に力を入れているが、魚沼市としては不登校問題に対して、どのような対策、対応を講じているか。

2. 婚活支援について

- (1) 婚活事業の一環で昔の仲人さんのような方々を活用して婚活サポーター制度を取り入れてはどうか。
- (2) 魚沼市が婚活事業に消極的にみえるがいかがか。
- (3) 30年度予算でうおぬま出会いサポート事業には334万円計上されていたが、今後どのような企画を予定されているのか。

7番（議席11番）大平栄治 一問一答

1. 市の債権回収について問う

平成30年度予算の歳入には、斎場の前地権者に対し弁償金として約2700万円余りが計上してある。これまで市が設定した弁償金は債権になっていないと申し上げてきた。

- (1) 前回の答弁以降、市が言う債権の根拠となりうる新たな法解釈があるのか。
- (2) 市が債権とした以上、市に与えられた権限を使い債務者から徴収していただくかなければならない。今後どのような手段を取るのか。

- (3) これまでに債務者である斎場の前地権者は、市に対し弁償金を支払う意思を示していない。債務者からの同意が得られない場合、市は訴訟に訴えることしかできない。これまで債務者の所有する銀行預金、固定資産などの財産、給与などの現金収入を調査したのか。実名が上がっているが債務超過になっていないか。どのような方向で弁償金を回収するのか。
- (4) 平成30年度予算では、個人市民税の過年度分の滞納金収納目標は、前年度までの実績を参考に滞納分の23.2%となっているが、弁償金は100%を収入に計上している。これは、平成30年度中に必ず収納すると受け取っているがよいか。
- (5) 万が一不納欠損となれば市の損害となり、提案した市長はもとより、これを許した議員の責任である。市長の見解を求める。

2. 市発注工事の検査を問う

魚沼市斎場建設工事の外構等整備工事では、設計変更を強いられた大きな部分の、廃棄物処理の埋設状況、掘削状況、集積状況、数量計測状況が客観的に判る写真が存在しないことがわかった。また、監督員が廃棄物の状況を現場立会し、巻き尺等をもって計測確認している状況写真も存在しない。工事の検査に際しては、監督員の権限は重大で、魚沼市の検査規定にとらわれず、検査員の目視による確認でもよいとの答弁があった。

- (1) 市長は監督員の職務をどのように捉えているか問う。
- (2) 工事の施工状況写真が存在しないのは大きな問題である。
本工事は工事請負費を3000万円余り増額変更したものであり、増額となった部分の証拠写真がないのは、施主である市民に説明できない。市長は市民にどう説明するのか。
- (3) 現場の状況証拠を客観的に残す現場写真がなく、設計変更までした工事の竣工検査が何事もなく合格したことは異常と言わざるを得ない。私が知る限り、こんなでたらめな行政執行はない。不適切だったのではないか。

3. 寿和温泉の大規模改修を問う

6月7日の市内視察の際に、平成30年度は露天風呂棟の改修、31年度は内湯の改修、32年度はプール棟の改修を順次実施するとの計画説明があった。寿和温泉は平成6年及び平成7年に竣工し共用してきた施設であり、老朽化が進んでいることは理解できた。しかし、一連の大規模改修費用と現在の利用状況、改修後の維持管理費など費用対効果については疑問が多い。

- (1) 観光客の利用数は限定的とのことだが、市はこの施設の目

- 的をどこに置いているのか。
- (2) 今回の大規模改修の目的は、今後の経費削減策と聞いている。これを実施した場合どのようなになるのか。
- (3) 寿和温泉の運営形態を今後どのようにしたいのか。プールについては教育委員会の生涯学習施設として、内湯の管理は地域に任すなど方針が出ているのか。施設全体を指定管理とするような話はどこまで進んでいるのか

8番（議席19番）遠藤徳一 **一問一答**

1. リフォーム補助支援をプレミアム商品券で
現金による支援ではなく、地元商店街と協議し、プレミアム商品券等を発行して市内商店街等で循環させてはどうか。家電商品等の対象外工事でも商品券を利用して購入できれば更に経済循環の裾野は広がると思うがどうか。
2. 定住自立圏構想に係るスケールメリットをどのように生かしていくのか
- (1) 当市は人口集中地区（D I D地区）の消滅で国からの支援が利用できない状態が発生している。広域圏の枠の中で当市の中心地のあり方はどうしていくか。拠点化の必要性、街中居住等を促進し、自立できる体制を整えていく必要があると思うがどうか。
- (2) 図書館、スポーツ施設、教育施設など各自治体フルセットで持ち合わせる必要がないとされている公共施設等についてはどのような対策を取るか。

平成30年6月21日（2日目）

【メモ】

9番（議席16番）本 田 篤 一括

1. 新知事誕生を受けて

新知事誕生を受け、今まで以上に強い連携を期待する。まずは信頼関係の確立も大切と思う。どのように意思疎通をとっていくか。

2. 合併特例債の延長について

合併特例債の発行期限を再延長する改正特例法が、国会にて成立した。発行期限をさらに5年間延ばすと、魚沼市の場合は合併後20年となり、庁舎建設完了時期の延長などメリットは大きい。市としても、再延長に向け計画を変更し申請してみないか。

3. 公共事業整備の優先順位基準設置を

山形県寒河江市のように、公共事業の優先順位に基準を設け、明確な視点で効率よく、透明性をもった公共投資を行うべきと考える。公共事業整備の優先順位基準の設置を行ってみたいかどうか。

4. 教科書採択について

子供たちのためという視点で採択すべきである。透明性と採択方法をどのように持たせているか。特に、いじめや命の問題など、道徳については十分に盛り込んである教科書を望むかどうか。

10番（議席8番）志 田 貢 一括

1. 共生サービスという新たな取り組みについて

共生型サービスは、高齢者と障害者及び障害児が同一の事業所でサービスを受けやすくなるなどメリットが大きい。魚沼市障害者計画・第5期魚沼市障害福祉計画・第1期魚沼市障害福祉計画で「地域の実情に合わせたサービスの展開について国・県をはじめ、近隣市町の動向を見守りながら、情報集に努め、必要な対応を検討します」としているが、他市の動向を見てからという後発の姿勢ではなく、積極的に行うべきと考えるかどうか。

11番（議席7番）富永三千敏 一問一答**1. 商業者の共通ポイントカード導入支援と市の健康ポイントカード事業について**

- (1) 商工会の市内共通ポイントカード導入に際し、参加事業所を増やすことによる商業活性化のための支援はどのようなものが可能か。
- (2) 健康ポイント制度の「うおぬま元気ポイント」がスタートしているが、事業の現状と今後の見通しはどうか。
- (3) 両カードの利便性向上と相乗効果アップのためカードを1枚にして共用できるよう検討できないか。

2. マンホールカード作成について

下水道広報プラットフォームで企画されたマンホールカードはマニアの中でブームとなり、地域を訪れる交流人口の拡大につながっていると聞いている。カードの入手には当該自治体を訪れることが必要であることから、魚沼市も再度マンホールカード作成を申請し来訪者増を狙うべきと考えるがどうか。

12番（議席10番）岡部計夫 一問一答**1. 文化財等の保護や利活用について**

- (1) 当市にも貴重な文化財が多数あり、その保存やそれらを取り扱う人材育成にも取り組んでいかなければならないと思うが市長の見解を問う。
- (2) 地元の画家早津剛氏が、自作の油絵を当市に寄贈したいとの申し出に対して、市長は明確な答弁をしていないとの声を聞く。市外に流出する前に、住み慣れた地元魚沼市に長く保存してほしいとの熱き想いをくみ取る考えはないのか。今後文化財保護法の改正に伴い、首長の権限で利活用ができ、保存に対する公費負担も可能になると聞いている。ぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思うが市長の見解を問う。
- (3) 旧オガワビルの3階、4階や市内の他の公共施設の空きスペースを利活用して、市内の芸術家の作品を展示する市民ギャラリーを設置する考えはないか。

2. 再犯防止推進法について

- (1) 安全で安心して暮らすことができる社会づくりのために「再犯防止」が重要課題であると認識している。国においても「地方再犯防止推進計画」を策定するよう地方自治体に通知していると聞くが、当市において今後どのように取り組んでいくのか。

- (2) 少年犯罪の再犯防止策の一つとして、働く場の確保として協力雇用主の存在があるが、現在、魚沼市においては何社存在するか。協力雇用主拡大に向けて今後どのように推進していくのか。
- (3) 障害者も犯罪者も受け入れてお互いに支え合う社会が、今後、望まれる社会であると思う。ハローワークと協力雇用主が一緒になって就労の場を確保できたならば、社会貢献の一端として、その企業にポイントを与えるなどの何らかの優遇措置をとる考えはないか。

13番（議席5番）大 桃 聰 一問一答

- 1. 福井県大野市の水田畦畔・道水路法面芝桜植栽事業について
 - (1) 本市でも同様の取り組みをしないか。
 - (2) 農林課、土木課、商工観光課、企画政策課、環境課等でそれぞれの取り組みができると思うが、どうか。
- 2. 小出郷図書館として購入した旧オガワビルについて
 - (1) 取得の意思決定、取得手続き等、議会軽視で問題があると思わないか。
 - (2) 今後このような取得は市民の声を聞き、議会に丁寧の説明する気はあるか。
 - (3) 3階、4階の利用計画の策定はいつまでか。
- 3. 代表監査委員に問う
 - (1) 自治法第196条第1項では、「監査委員は、普通地方公共団体の長が、議会の同意を得て、人格が高潔で、普通地方公共団体の財務管理、事業の経営管理その他行政運営に関し優れた識見を有する者」とある。人格は高潔であると思うが、自身では優れた識見を有していると思っているのか。
 - (2) 予算書、決算書に載っている瑕疵担保請求（滞納繰越分）があるがどう思うか。
 - (3) これは架空の数字だが、平成29年度決算書に載せた場合はどうするか。
 - (4) この件について監査請求書が出た場合の取り扱いはどうするか。
- 4. 職員のハラスメント処分について
 - (1) 戒告では処分が甘くないか。
 - (2) ハラスメント行為が6年間と長期に渡り、悪質だと思うがどうか。
 - (3) 歴代の教育次長を訓告としたが、それは妥当なのか。
 - (4) 今後このようなことが起きないための対策を問う。

14番（議席18番）大屋角政 一問一答

1. 原発事故の3つの検証について

新潟県では、福島第一原発事故及びその影響と課題に関する3つの検証（事故原因、事故による健康と生活への影響、安全な避難方法）を行うため、個々の検証を総括する「総括検証委員会」をことしの1月に設置した。この3つの検証は原発事故がいつ起こっても住民の安全と命を守れるか検証し、守れないようであれば原発を動かさない、原発をなくしていく方向が導き出されると考えるが、市長の見解を求める。

2. 農業の市独自施策について

今年度から、米の交付金がなくなり基本的には減反政策が終わりを迎えた。そこで、市独自の米政策はどのようになっているか。

- (1) 過去5年間の減反率と今年度の減反率はどうか。
- (2) 主食用コメ以外の農産物生産が予定として増えているか。

3. セクハラ問題について

- (1) 職員のモラルチェックは、どのように行われていたのか。
- (2) 市民の信頼回復と再発防止に万全を期すとしているが、その対策をどのように考えているのか。

15番（議席6番）大平恭児 一問一答

1. 公文書管理について

国による公文書改ざん、隠ぺいやごまかしが国会で大問題になっている。行政への信頼が失墜している中で、公文書管理そのものが問われている。当市の現状と今後について市長に見解を問う。

- (1) 公文書はそもそも何のために、誰のためにあるのか、基本的認識について伺う。
- (2) 行政執行するに当たり、その都度、説明責任を果たす上で記録などは詳細に残し、責任の所在を明確にし、担当者などがそれを適切に保管しなければならないと考える。現状はどうか。
- (3) 公文書には、種別により保存期限があるが、行政の継続性から期限を過ぎても管理を行うべきと考える。どのような取扱いをしているのか。
- (4) 公文書は、市民共有財産、歴史文書ともなり、市民の知る権利に応える上でも職務規程ではなく条例上に定めるべきではないか。

2. 民主主義教育について

昨今の若者の政治離れは、深刻な状況である。今後の地域社会を担う上でもっと政治に関心を持つことが重要であり、それには学校教育、社会教育に民主主義を根付かせることが大切だと考える。以下の点について見解を問う。

- (1) 現在の教育全般が結果をすぐに求めることになっているのではないか。もっと多様な意見を議論や討論する機会が必要だと思うがどうか。
- (2) 中学生議会が昨年から実施され、大いに成果があった。これを契機に選挙管理委員会などとも連携して、学校教育や社会教育の中で選挙制度や社会の仕組みを学ぶ講座など積極的に取り入れてはどうか。

3. 文化財の有効活用について

市内にある文化施設を観光だけではなく、市民にもっとその価値を広めるためにも文化財の有効活用が求められていると考える。国では、有効活用についての指針を示している。以下の点について見解を問う。

- (1) 国では、文化財の保存ばかりではなく、地域の暮らしにあったもの、市民がその価値を共有することにも力点を置いている。当市では、文化財（建造物）の有効活用についてはどのような考え方をもっているのか。
- (2) 市民向けのワークショップや講座などでその活用方法について、市民の中で学び検討するような気運を高めてはどうか。
- (3) 観光協会や文化協会などの関係団体と文化財の有効活用について、取り組まれているものもあるが、今後さらに積極的に進めていく考えはあるか。

16番（議席15番）高野 甲子雄 一問一答

1. 子ども・子育て支援事業計画の見直しについて

共働き家庭、核家族化の増加など、子育てにおける保育園の存在意義はますます大きくなっている。入広瀬地区については休園となっている幼稚園を早急に保育園に移行し、ゼロ歳児保育も含めた保育、子育て支援策の充実を図るべきと考える。入広瀬地区への保育園設置の考えはないのか。

2. 食育推進について

食育基本法は「国民運動」として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられた課題である。」としている。魚沼市としての食育推進計画による家庭及び学校、保育所における主な施策とその成果について問う。また、家庭科授業における

食事作りなど、食に関わる授業の充実は考えられているか。

17番（議席12番）渡辺 一美 一問一答

1. 新庁舎供用開始に向けて魚沼市発展のための公共交通利用促進とJR駅の活用について

魚沼市が将来も安心して暮らし続けられるまちづくりを目指し「魚沼市立地適正化計画」に基づいた「コンパクトなまちづくり」を実現させるためにも公共交通政策は要中の要である。その具体策として次の5点を提案する。

- (1) 北堀之内駅・越後堀之内駅・小出駅のバリアフリー化をJRに要望してはどうか。
- (2) 市内9つのJR駅への乗合タクシー・コミュニティバスを、列車の運行スケジュールに合わせた利用しやすい運行路線と台数にする必要があると考える。各駅までの路線を増やして、徒歩圏内のバス停方式にして、小出市街地までの直通のバス路線は廃止してはどうか。
- (3) 越後堀之内駅は国道側と高校・保育園側の両方から駅に入場できるようにし、駅を中心とした徒歩圏内のまちづくりを計画すべきと考えるがどうか。
- (4) 浦佐駅への只見線の乗り入れと、浦佐駅の在来線のバリアフリー化の要望をしてはどうか。
- (5) 只見線に羽根川駅の新設を。

職員も市民も新庁舎へ公共交通でいく方が便利なくらいの体制を作らなければならない。新潟空港への新幹線乗り入れも要望しているところであり、観光客の増加も図れる。JRに要望するだけでなく、魚沼市や県が財源を負担する考えで臨まなければならないと思う。また、バス・タクシーの運行は、市内の業者の調整も市の大きな役割である。市長の見解を問う。